

はじめに

当研究所は、市内における保健・環境衛生行政の科学的、技術的な中核機関として、種々の疾病の予防、食の安全確保、また、生活環境の向上のための保健衛生、食品衛生、環境保全に関する「試験検査」、「調査研究」、「研修指導」及び「情報の収集・解析・提供」等に、日々取り組んでおります。

さて、近年の京都市では、鹿やイノシシが住宅地を徘徊したり暴走して、中には人を傷つける事件が発生しています。背景には、里山減少や狩猟人口の減少があると言われてはいますが、健康危機管理の観点からは、これらの動物が人里へ出現することによって、今後、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）のような「動物由来感染症」等の増加することが危惧されます。

また、本市には、年間300万人以上の外国人観光客が宿泊しています。京都の魅力をより多くの方に知っていただくこと自体は喜ばしい一方で、東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博等により今後來訪者の増加が見込まれ、健康危機管理の観点からは、「輸入感染症」の感染防止と早期発見が、本市の公衆衛生上重要な課題となることが想定されます。

最近の日本各地での「麻しん」発生状況を見ると、患者を発見し必要な治療及び感染拡大防止策を講ずるのは、まさに時間との勝負であると痛感しています。「輸入感染症」の動向については、継続的に注視する必要があります。

このように、健康危機をめぐる情勢が予断を許さない中、全国の検査研究機関と連携しながら、迅速かつ正確な検査を通じて正しい情報提供を行うという当研究所の使命は、ますます重要になっているものと認識しております。

このたび、平成29年度における実施事業および調査研究の成果を、年報（第84号）として取りまとめましたので、お目通しいただければ幸いです。今後とも関係機関との連携を図りながら、市民の皆様の健康や安全・安心に寄与する所存でございますので、より一層のご指導を賜りますようお願いいたします。

平成31年1月

京都市衛生環境研究所長
齊藤泰樹